

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 2 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23510330

研究課題名(和文) ミクロネシア信託統治の始原期に関する研究 委任統治からの移行と植民地社会の再編

研究課題名(英文) Research on a transitional stage from mandate to trusteeship of Micronesia-US's reorganization of Japanese colonial society

研究代表者

今泉 裕美子 (IMAIZUMI, Yumiko)

法政大学・国際文化学部・教授

研究者番号：30266275

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：日米政府の刊行・未刊行史・資料、聞き取りから、信託統治への移行期に関する統治及び政策の全体像の提示、米海軍が収集した日本の統治に関する情報が極めて限定されており、アメリカ文化人類学者の植民地社会分析を日本による統治の実態と突き合わせて検討、信託統治への移行過程は、米軍の南洋群島占領統治から検討すべきこと、非現地住民引揚げまでで時期区分する必要性を提示、米の極東政策と信託統治政策との関係を日本兵と非現地住民の帰還政策から分析した。但し、新たな史・資料を収集しえたが情報が僅少で、改めて今後の調査方針をたて、当時10代後半以後の中等教育を受けたインフォマントからの情報の重要性を確認した。

研究成果の概要(英文)：This research clarified 6 points below. US Navy's transition process from Japan's mandate to US's trusteeship analyzing published and unpublished US and Japanese documents and oral history, US Navy's information related Japanese rule for Micronesia was very limited and based mostly on (a) publication of South Seas Government and Tadao Yanaihara's research and on (b) US anthropologists analyses which had little information on Micronesia, US Naval military administration during the war made the basic of US trusteeship of Micronesia, US repatriation policy for Japanese soldiers and non-resident civilians related to both policy of US occupation of the Far East and trusteeship of Micronesia, grasping general information about US and Japanese documents related this research and making a future research plan, oral history of war survivors (who attended secondary school in the latter teenage years of the time) is key information of this research.

研究分野：国際関係学

キーワード：ミクロネシア 委任統治 信託統治 南洋群島 植民地社会 太平洋戦争 引揚げ 南洋庁

1. 研究開始当初の背景

日本においては、南洋群島統治全期間を対象としたものが未だ存在せず、また戦時南洋群島については、日本軍の戦略や戦闘状況を対象としたものが多かった。米軍による南洋群島占領後の実態も、概説的な研究にとどまっている。アメリカにおいては、南洋群島統治全期間に関して概説的な研究が存在するものの、南洋庁や日本軍の未刊行史料を用いておらず、分析には再検討を要する点が少なくない。ミクロネシア占領及び信託統治への移行期に関しては、D. E. Richard, *United States Naval Administration of the Trust Territory of the Pacific Islands, vol. I-III, The Wartime Military Government Period 1942-1945*, Washington, D.C. Office of Naval Operations, 1957、が用いられることが多かった。本書は政策決定に関する公文書、政策関係者からの聞き取り、フィールドワークをもとに編集された米海軍の公的な刊行史料であるが、史料それ自体の特徴を分析しないままに引用されてきた。同書は出典が必ずしも示されていない記述も少なくなく、明記されているとしても原本となる史料を見出す情報に欠くため、報告者が発掘した公文書館での史料と突き合わせての検討が必要である。また、米海軍が政策策定のために派遣した文化人類学者の研究は、当該時期についての情報に富むが、これら研究も日本による南洋群島統治に関する情報が非常に乏しいなかで分析されたという制約を考慮する必要がある。

すなわち、以上のような公刊・未公刊史料や研究は、日本の南洋群島統治の実態を踏まえて評価される必要があり、こうした作業に基づくミクロネシア信託統治の研究は行われてこなかった。特にアメリカのミクロネシア信託統治に関する研究は、外交関係が現地の政治分析が中心であり、ミクロネシアの植民地社会が日本の委任統治からアメリカの信託統治にどのように再編されたのか、の研究は行われてこなかった。こうした研究状況はまた、関連する史・資料の発掘が滞ってきたことに加え、欧米言語圏の研究者が日本語史・資料を読めないことも一因であった。報告者は、第一次世界大戦以来の日本の南洋群島統治について、25年にわたって日米の史・資料を収集し、関係者からの聞き取りを重ね、分析を行ってきたことから、本研究課題を提示するに至った。

2. 研究の目的

本研究は、日本による統治から解放されたミクロネシアの戦後の再「植民地化」、すなわちアメリカによる戦略的信託統治をその始原期において特徴づけるため、(1)第二次世界大戦からサンフランシスコ講和会議に至るミクロネシアをめぐる日米のアジア及び太平洋島嶼政策の分析、(2)ミクロネシア「信託統治」と「委任統治」の関係性を政策と実態から解明、特に実態については(3)

現地社会の戦時体制から戦後への変容を「植民地社会」の再編という文脈で分析、する。

3. 研究の方法

(1)国内の公文書館などで、課題に関する史・資料の確認、相互の関連付け、複写をおこなう。

(2)聞き取り調査を旧南洋群島引揚げ者に対して行うと同時に、ミクロネシア現地でも行う。従来の聞き取り調査データを、本研究課題に即して整理し直す。

(3)個人所蔵資料の複写と整理、分析を行う。

(4)沖縄の地域史関係者(県市町村字史関係者)とミクロネシアの旧南洋群島支庁区ごとの資料保存所および地元の研究者と、情報交換、研究交流を実施する。

4. 研究成果

(1)米政府の主に刊行史料を収集し、報告者が所蔵する米日の未刊行史料とつきあわせ、委任統治からの移行期に関する米海軍の統治の概要を明らかにした。

(2)当時米海軍が有する日本の統治に関する情報が限定されていることとその特徴、特に海軍が政策策定のために派遣した文化人類学者のミクロネシア研究を、日本による統治の実態と突き合わせ研究の特徴や統治実態について分析した。

(3)信託統治への移行過程は、戦時の米軍による南洋群島の占領統治から検討する必要があること、およびその具体的な内容を分析した。その際、第一次世界大戦時の日本海軍による南洋群島の占領から委任統治への移行過程について、講和会議と占領政策との関係を比較参照した。また当初は、対象時期をサンフランシスコ講和会議までとしたが、この間にさらなるいくつかの時期区分が必要であり、(4)にみる日本兵と非現地住民の帰還までの時期が、区切りの一つとなることがわかり、そこまでを集中的に研究する方針に修正した。

(4)日本兵と非現地住民の帰還政策に、米政府の極東政策と信託統治政策とがどのように反映されているかを分析した。

ただし(1)~(4)の分析の過程で、本課題中に収集した史・資料でも十分ではないことがわかった。よって、

(5)本研究課題に関する史・資料は従来より十分には発掘されておらず、今回収集した史・資料は本研究課題に十分対応するものの、情報は必ずしも多くはなかった。よって、これを裏付けるためのさらなる史・資料収集が必要であり、次の調査についても方針を立てることが出来た。

(6)北マリアナ諸島、米領グアム、ミクロネシア連邦、パラオ共和国のHPOスタッフ、博物館学芸員、研究者と交流し、報告者が収集した日米の未公刊史料、写真資料、聞き取りが、貴重かつ新しい情報が含まれていることが判明した。またミクロネシアの関係機関所蔵の史・資料で複写を重ねるなどにより、出典など資料情報が曖昧となっているものに

についても、正確な情報の確認に努めた。

(7)史・資料に現れない実態は聞き取りからの情報から得ることができ、あるいは史・資料をもとに聞き取りをした結果、インフォマントが記憶していないと回答してきた事項について、新たな情報を思い起こして頂くことが可能となった。現在聞き取りが可能なインフォマントの年齢には制約があるが、なかでも当時 10 代後半以後の中等教育以上を受けた方々は、戦時戦後の日米の統治政策に重要な役割を果たしており、彼らの情報が重要であることを確認した。

(8)個人所蔵の史・資料の複写を行った。

(5)に記したような事情から、本研究課題を独立のテーマとして論文化するにはさらなる史・資料収集と、これに基づく検討を必要とすることも明らかとなった。よって、5に記す研究発表では、アメリカの信託統治への移行期に再編の対象となった日本統治下の植民地社会について、特に新たに発掘した史・資料に基づく戦時や米軍占領下の特徴を踏まえ、その関連を意識して分析した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

IMAIZUMI Yumiko, "The Marianas under Japanese Navy Administration (1914-1922)," E-publication of the 2nd Marianas History Conference-One Archipelago, Many Stories: Integrating our Narratives(August 30-31,2013, Mangilao, Guam), History of Mariana Islands, Three of Three, (peer reviewed), Guampedia Foundation, Inc., UOG Station, Mangilao, Guam, 2013, pp. 287-300
http://issuu.com/quampedia/docs/mhc_history_bookpft#

IMAIZUMI Yumiko, "Carolinian and Chamorros in Japanese Mandated NMI: A Review of Tadao Yanaihara's Studies on Micronesia," E-publication of the 1st Marianas History Conference: One Archipelago, Many Stories (June 14-16,2012, Saipan),Late Colonial History, Part five of seven, (peer reviewed), Guampedia Foundation, Inc.,UOG Station, Mangilao, Guam, 2012, pp. 43-62.
http://issuu.com/quampedia/docs/marianas_late_colonial_history/1

[学会発表](計5件)

IMAIZUMI Yumiko, "Japan's Policy for Micronesia," The Emergence of <Asia-Pacific>in the International Relations-The First World War and Japan-, CHIR-Japan, Dec 6th, 2014, Japan Foundation (Tokyo・Shinjuku-ku).

今泉裕美子, 問題提起、日本移民学会 2012 年度ワークショップ 「日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究、2013 年 3 月 30 日、法政大学市ヶ谷キャンパス(東京・千代田区)

今泉裕美子, パラオ諸島における「引揚げ」(1943~46 年)、日本移民学会 2012 年度ワークショップ 「日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究、2013 年 3 月 30 日、法政大学市ヶ谷キャンパス(東京・千代田区)

今泉裕美子, 旧南洋群島における朝鮮人の戦時労働動員、済州大学在日済州人センター開館記念国際学術会議、2012 年 12 月 8 日、於済州大学在日済州人センター(大韓民国・済州島)

IMAIZUMI Yumiko, The Carolinians and the Chamorros in the Japanese Mandated NMI:A Review of Tadao Yanaihara's Studies on Micronesia, Marianas History Conference-One Archipelago, Many Stories, June 16th, 2012, Fiesta Resort & Spa (Saipan・NMI).

[図書](計4件)

今泉裕美子, 吉川弘文館、南洋群島の日本の軍隊(坂本悠一編『地域のなかの軍隊7(植民地)帝国支配の最前線』) 2015、pp. 260 - 290(全 p. 299)

今泉裕美子, 吉川弘文館、コラム サイパン島・テニアン島の「玉砕」(坂本悠一編『地域のなかの軍隊7(植民地)帝国支配の最前線』) 2014、pp.291 - 299(全 p. 299)

今泉裕美子, 岩波書店、太平洋の「地域」形成と日本 日本の南洋群島統治から考える(李成市他編『岩波講座日本歴史第 20 巻(地域論)』) 2014、pp. 265-294(全 p. 351)

今泉裕美子, 東京大学出版会、南洋群島研究(鴨下重彦他編『矢内原忠雄』) 2011、pp. 130-162(全 p. 351)

[その他](計1件)

シンポジウム予稿集論文

今泉裕美子, 旧南洋群島における朝鮮人の戦時労働動員、在日済州人センター開館記念シンポジウム予稿集、依頼論文、2012、pp. 32-46(朝鮮語訳 pp.47-62)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

今泉 裕美子 (IMAIZUMI, Yumiko)

法政大学・国際文化学部・教授

研究者番号：30266275